

明石市の中心市街地活性化基本計画について

明石市中心市街地活性化プロジェクト

1. はじめに

明石市は、兵庫県の南部、東経 135 度の日本標準時子午線上に位置しており、人口は約 29 万人、面積は約 49km²、瀬戸内海に面して最大で東西に約 16km、南北に約 5 km の細長いまちを形成している。

阪神都市圏と播磨臨海地域、そして海を隔てて淡路・四国とを結ぶ位置にあることから、海陸交通の要衝であり、昭和 35 年以降は、住宅都市・産業都市として著しく成長してきた。

中心市街地は、市域の東部に位置し、明石海峡を目前に望み、鹿ノ瀬と呼ばれる好漁場があることから、昔から「魚のまちあかし」の中心として、「魚の棚商店街」をはじめとする商店街や明石ダコを用いた「明石焼（玉子焼）」が有名である。

また、中心市街地北側には、明石城跡を中心につくられた「明石公園」や時のまちのシンボルである「天文科学館」など、様々な地域資源があり、明石駅を中心に日々多くの人達が集まっている。



明石市位置図



魚の棚商店街



明石焼（玉子焼）

2. 中心市街地の課題

平成 10 年の明石海峡大橋の開通により、中心市

街地南側に位置する明石港での海上交通利用者は大幅に減少し、駅から港までの歩行者通行量も大きく減り、回遊性が低下した。

その中、駅前の大規模小売店舗の撤退や商店街の空き店舗などの問題を抱えている。

そこで、活性化に向けた主な課題を以下の 2 つに整理した。

① 明石の魅力が伝わり、使い勝手がよいと感じるようなまちになっていない

明石駅では、約 10 万人 / 日が乗降し、地域資源も豊富であるが、市民や観光客にとって、魅力的な場所として認識されていない。

② 来訪目的が少なく、国道 2 号が分断要素となり、まちなかを気軽に回遊できていない

駅周辺の歩行者動線や建物形状、商業環境など、中心市街地全体への回遊を誘い、気軽に移動できる環境となっていない。

3. 中心市街地の区域

市の玄関口である明石駅や国道 2 号南の商店街、公共公益施設、瀬戸内海に面する明石港を含んだ約 60ha を区域とした。



中心市街地区域図

4. 活性化の方針および目標

明石の地域資源である「瀬戸内海の景色」や「海の幸」「公園や歴史文化施設」「交通機能の利便性」などの魅力を強めることにより、明石で「時」を過ごす人々の暮らしを豊かにできるような活性化を目指し、下記に示すような基本コンセプトを掲げ、2つの方針および目標を設定した。

●基本コンセプト 「人々の暮らしを、海・食・時で彩るまちに」

●活性化の方針 1

市民や観光客へのサービスを改善し、便利で満足できる中心市街地をつくる

●活性化の目標 1

『便利で暮らしやすいまち』にする

●数値目標指標 1

【駅至近の都市福利施設利用者数】

現況値 (H21)

435,691 人 / 年



目標値 (H27)

478,000 人 / 年

※参考指標

中心市街地の「満足度」アップ

●活性化の方針 2

回遊環境を整え、地域資源を活かした快適で楽しい中心市街地をつくる

●活性化の目標 2

『一歩足を伸ばして楽しめるまち』にする

●数値目標指標 2

【国道 2 号南側の歩行者・自転車通行量】

現況値 (H21)

19,371 人 / 日



目標値 (H27)

21,000 人 / 日

※参考指標

中心市街地の「来街頻度」アップ

5. 活性化のための主な事業

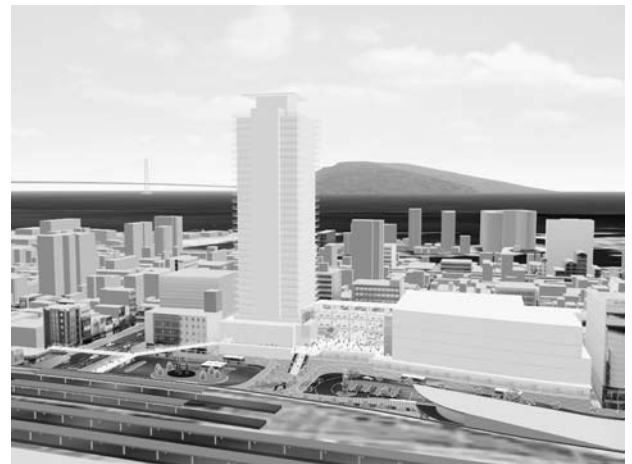
① 明石駅前南地区第一種市街地再開発事業 / 国道 2 号立体横断歩行者道路整備 など

明石駅前南側の大規模小売店舗跡周辺は、現在、土地の有効活用や耐震性などの課題を有していることから、共同化による再開発を行う。

再開発により、様々な都市機能を駅近くで充実させることにより、明石駅前と国道 2 号南側エリアとを結ぶ新たな中心市街地の拠点づくりを目指す。

なお、再開発では駅前広場などの交通結節点整備

や再開発にあわせた国道 2 号立体横断施設の整備により、駅から商店街エリアなど、中心市街地全体への回遊を促すような、安全で快適な歩行環境整備も行う。



再開発イメージ図

② 駅前市役所窓口機能整備 / 駅前観光施設整備 など

再開発ビルには、明石らしさを出した商業施設や、都市型高層住宅に加え、市民の利用頻度が高い市役所部門、観光案内やイベントスペース、子育て支援施設や医療モールなどの都市福利機能を複合させ、来街者の利便性を向上させる。

③ 中心市街地歩行環境整備 / 市道明石中央 12 号線（観光道路）道路改良 など

中心市街地内の道路のバリアフリー化、美装化、電線類地中化などを行うことにより良好な道路景観の形成や防災性向上を行う。



観光道路整備イメージ図

④旬感！明石海峡グルメ道楽／春旬祭関連事業／昭和の香りただよう本町商店街事業 など

「海峡のまち、魚を楽しむまち」として、明石の食材を活かした料理コンテストやグルメ屋台、歩行環境整備にあわせたフリーマーケットなど、地域資源を活かした様々なイベントを、空き店舗の有効活用などもあわせながら行い、中心市街地への来街目的の創出や魅力の向上、賑わいの再生を図る。



旬感！グルメ道楽



フリーマーケット

⑤空き店舗活用促進事業

地元商店街や有識者等の意見に基づきながら、戦略的に空き店舗への出店者を選定し、改装費や家賃の一部を補助することにより、空き店舗を減少させ、来街者に楽しんでもらえる商店街づくりを行う。

6. おわりに

様々な関係者の協力のもと、計画は策定され、平成22年11月には内閣総理大臣より認定を受けることができた。

その中、明石港のたこフェリーが休航するなど、依然活性化に向けて厳しい状況が続いているが、核事業である明石駅前南地区再開発事業においては、中心市街地全体の活性化へ寄与する床構成の検討などが準備組合で検討されており、地元商店街などにおいても、商業者が連携し様々な事業計画が鋭意検討されている状況にある。

これからも、市民、民間、行政が一体となって、中心市街地及び市全体の活性化に向けた事業を推進していきたいと考える。